

## 二年・三年保育

### 五歳児の三学期に臨んで



永山 曉美

#### (一) 三学期になつて

新年を迎え、五歳児なりの理解と希望をもって過ごしたお正月の経験を生かして、年末年始のようす、挨拶などに改めて関心をもたせ、整理させながら、楽しかったお正月の余韻を味わうようにしたいと思います。また、冬休みのあとで、しばらく不規則、不摂生な生活をしがちだった名残りがあるため、早く規律ある健康な生活にもどし、最後の学期の活動力をもりあげていくようにしむけることが大切なことだと思ひます。

二学期から心掛けてきた小学校進学が、いよいよ目前にきていますので、幼稚園としても生活のあり方を少しずつ小学校の環境に近づける態勢にもつていくように留意する必要があると思ひます。

○例えば、冬休み後の登園に慣れてきた二月頃より、五歳児の組だけ毎朝九時に集まりをもち、ラジオ体操をしたあと、季節の歌をうたったり、園長先生のお話をうかがったり、時には短時間でできる各組競争の伝達ゲームなどをして楽しむのもよいと思ひます。また、たまには附属小学校の朝会に仲間入りをさせてもらって、体操をしたり、校長先生のお話をうかがったり、男の先生の号令で敏速に行動をするというような経験をしてみると、緊張の中にも、もうすぐ小学生になる

のだという喜びを感じているようすが見られます。

○二期期のところでも述べましたが、仕事に取組む時にはぐずぐずしないで、早く集中してできるように、また一定の時間内に要領よくまとめて次へ転換できる力を養っていかなければならないと思います。誘導による指導と平行して、自由遊びと仕事をはつきり分け、それに対処できる心の準備、集まる前に自発的に用便をする習慣を身につけさせたいと思います。

○今までの生活の中では、「○○ちゃん」と名前と呼ばれることが多かったので、「○○さん」と姓で呼ばれる経験をさせるように心掛け、出席を調べる時や、話合いの場などにしばしばとり入れるようにしたいと思います。すると自由遊びの時に姓で呼び会って、くすくす笑いながら自分たちも小学生になってそう呼ばれるのを期待しているようすがうかがわれます。

教師の側としていつも感じるのは、五歳児組を担当した三期は、どんなに先まわりをして計画をたて準備を始めた積りでも月日の方がどんどん経ってしまつて、修了式を目前にするのと、あれもこれも不十分だったという後悔が多くなつてしまつていくことです。三期期には、始めから綿密な計画をたて、毎日を取りおとしのないように張切つてかからなければならぬと思います。しかしこれはあくまでも教師の側の心構えであつ

て、大切な成長期である五歳児にとっては落着いたふんい気の中で、最後の幼稚園生活を十分に楽しみ、充実した思い出深い三期期になるように、特に心づかいをしていきたいと思ひます。

## (二)三期期の教育計画を實踐するに当たつて

### (1)健康の習慣の確立

寒さのために健康の習慣をくずすことのないように留意することが大切なことの一つだと思います。戸外遊びを嫌がったり、室内の汚れた空気の中でどびまわつたり、厚着や、悪い姿勢、体が清潔でない子どもを見かけようになるので、そうなりがちな子どもには、特に注意をする必要があります。教師も戸外の活動を助長するようにつとめ室内の換気、室温の調節などに十分に気を配りたいと思ひます。

また、運動を好まないような子どもには、その原因がどこにあるかを考慮して皆が活発に運動するようにしむけたいと思ひます。目標をきめて表を作るなどして自分でその成果を書込ませたり、助言をして励ましてやるようにすることもよいと思ひます。

### (2)環境の整理

冬季のさまざまな自然現象や、最近の五歳児の発達を考慮して、子どもたちが積極的に触れたり、考えたり、調べたりできるような環境を整えておくことも必要なことであると思ひます。

います。

○例えば、虫めがね、顕微鏡、温湿度計、磁石、鉛筆削り器、カッター、マイクロホン、テープレコーダー、プレーヤー、各種の図鑑、地球儀など、今までに既に常備して使用しているものですが、なお、いっそう整備しておきたいと思えます。またこれらの備品の適切な扱い方をよく指導し、活動の前には注意や約束を話し合い、事故や危険のないように見守ることを忘れないようにしなければならぬと思えます。

それから、ストーブ等の暖房器具や暖飯器については、常備する場所、器具の点検に常に細心の注意が必要になります。子どもたちにも暖房の諸器具についての簡単な知識や安全な使い方を身につけるようにし、器具の近くでは、特に行動に注意をする習慣をつけさせたいと思えます。

### (3) 協調性・自制心を育てる

自分の意見もち、はっきりいい現わせるということは大切なことですが、それと同時に他の人の意見もよく聞けるということを、この時期にはぜひ身につけさせたいと思えます。自分の考えと、他の人の考えを比べてみることで、話し合いが上手にできるように、そのような経験の場をなるべく多く作って、協調し、協力していくという習慣をつけたいと思えます。

この時期の五歳児は正義感が強く、善悪の判断、集団の中においての行動の基準を理解することができるので、他人に迷惑をかけることをしないというだけでなく、他の人のために役立つことを喜べるように、集団の一員として少しぐらいのことはがまんし、自制できるような力も育てていきたいと思えます。

### (4) 伝言の経験をさせる

五歳児には今までも伝言をする機会を作ろうにしてきましたが、家庭への伝言がいっそう正しくできるように、また伝言によって持ってくるものを忘れないように、たびたび経験をさせたいと思えます。家庭ともよく連絡をして、印刷物のある時にも、子どもたちの口からきくように、忘れものがないように協力をしてもらおうようにしたいと思います。

### (5) 交通安全についての訓練

小学校に入学すると、今までと違う路をスクールバスや保護者の付添なしで一人で通学するようになる人も多いため、道路を歩く時の注意、いろいろな標識を見分ける力、信号や横断歩道での注意を幼稚園内でも仮定して実践しています。家庭ともよく連絡をして今からよく実行させたいと思えます。また、車の前後からのとび出し、道路で遊ぶことの危険なことを実例をあげてよく説明して心にとめさせ、路上であった保護者以外の人と寄り道をしてはいけないことを約束

しておかなければならないと思います。

### (三) 三学期の展開

#### (1) 三学期の五歳児

○三学期になると誰も彼も小学校に進学するという希望がいっぱいで、その自覚が強く生活態度もいつそう活発になり、何事も自信をもって行動するようになります。この機会に、今まで培ってきたよい習慣をしかり身につけるように見守っていきたいと思います。また責任を持たせると喜び、積極的に行動をするようになるので、一人一人にできるだけ責任を果たすような経験の場を多く作って、力を十分に發揮させたいと思います。

○二学期のところでも述べましたが、運動や理解に関する能力を整理して、個人差を考慮にいれながら一定のレベルに達するように努力をしてきましたが、そのまとめを楽しく日常の遊びの中で実践していきたいと思います。お正月頃のいろいろな遊びの中には、五歳児の能力を伸ばすのに都合のよいものがたくさんあり、子どもたちの自主的な遊びを通して力いっぱい活動させたいと思います。

△例えば、かるた、すご六、トランプ、絵合わせ、福笑いなどのゲームを、自分たちで作ったものも使って遊ぶ。

△はねつき、バトミントン、たこあげ、こままわし、などを

上手にできるようにくふうしながら、根気よく友だちと競争して遊ぶ。

△カレンダー作り、郵便ごっこ、相撲ごっこ、学校ごっこなどをして、グループ活動をもちあげる。

○厳寒をものともせず、頬を赤くして元気に遊ぶ子どもたちの姿は、生活力にあふれています。かけっこ、とびっこ、投げっこ、いろいろな鬼あそび、縄とびなどは年間を通して行なわれていますが、霜柱、氷、つららなどを集めての遊びには、なかなかおもしろいのが見られます。

△例えば霜やつららや氷を溶けないようにくふうする競争、池からとってきた大きな氷をテラスに並べてその溶け具合でさまざまな形を連想してお話作りをする遊び、形の異なる容器で好きな形の氷を作る、温度計をみて氷の厚さをあてっこするなど興味が連続しているので、たまに暖くて氷がはらないとがっかりしている光景がみられます。この人たちの中には、三歳児の頃、「誰だろう? このバケツの中にいたずらをしてガラスをはめこんだのは!」と、バケツにはった氷を眺めていた子どもがいたことが懐しく思い出されます。

この辺りでは、ひと冬に何回か雪が積ることがあると、雪あそびができるのは翌日いっぱい位ですぐ溶けてしまうので、雪あそびをおいても雪あそびに集中することになります。

△降り始めた雪の一片が濃色のセーターの毛糸にふわりと  
つて、その美しい結晶に気づいて思わず歓声をあげたり、  
手に受けた雪が溶けて水になるのを実感をもって味わった  
りする人もあります。

△雪の積った翌日には、下着や靴下の取替えを家から持参し  
て、張切つて登園してきます。間もなく、自分たちの背よ  
り高い雪だるまがずらりと並んだり、あちこちで雪合戦が  
始まったり、グループで一時間以上もがんばつて作った雪  
の滑り台でビニール布を敷いて滑りっこをしたり、ジャン  
グルや遊円塔などの柱を利用して「かまくら」を作るな  
ど、嬉々とした声が庭中いっぱいになります。昼近くにな  
つて集まった頃には、途中で脱いだ衣服や、ぬれた手袋、  
靴下などがストーブの近くに並び、子どもたちの活動を物  
語っているようです。

○この頃の五歳児の遊びは、自分たちでルールを作ったり、遊  
び方を考えたりして、集団的な遊びをする人が多く見られる  
ので教師の介在する余地はないようですが、放任するとボス  
などの存在が目立つことがあるので、その点をよく注意して  
見守る必要があります。機会を捉えて、自分だけが偉いので  
はなく、誰でも優れたところをもっていることを実例をあげ  
て話してやるようにしたいと思います。

○卒業を前にして、二月に入ると卒業に関する行事とか、進学

小学校での入学に関する身体検査や知能テストなどがぼつぼ  
つと出てきます。二年も三年もいっしょに仲よく過ごしたお  
友だちと小学校が別れ別れになる人もあり、何となく落着か  
ない気分の人も見られます。残り少なくなった幼稚園生活を  
楽しく、思い出深く過ごせるように一日一日を大切にしたい  
と思います。

## (2) 三学期の行事から

### 〔一月〕

(いろいろなごっこ遊び)

○「郵便ごっこ」各家庭にたくさん配達される年賀郵便に関  
心を持っているので、始めは年賀葉書のやりとりから、字に  
興味をもっている人はだんだんに日常の便りがかけるように  
発展させていきます。形式も葉書から封書、小包、電報など  
と次第にわくをひろげていき、それぞれに必要な切手を覚え、  
小包は計量機で測つたりします。その年によっては、幼稚園  
中の級が参加する大きなごっこ遊びになることもあります。  
幼稚園全体のポストを作つて年長組が管理をし集配するよう  
にして、各級の室内に郵便局、文房具店、銀行などを作りま  
す。人気のある郵便屋さん、郵便局員は皆が経験するように  
交替し合つて活動し、半月以上も興味が持続することも珍し  
くありません。他の級の邪魔をしないように各級の扉に郵便  
受けを備えついたり、各人の郵便物入れを作つておくと、交

友関係や、子どもたちの興味のあり方が察せられて、参考になります。

○「売屋さんごっこ」「劇場ごっこ」自由遊びの中で、いろいろな製作をしているのを見かけますが、独創的なよい表現があればとりあげて皆に見せ、創作意欲を高めるようにしていますと、今までに何度か経験している売屋さんごっこや、ペープサートや指人形を使った劇場ごっこ等に発展し、隣の級や年少組のお友だちを招待しようという気運になることがあります。手順よく協力して準備をし、おみやげや、くじ引きなどを用意したりして賑やかに披露をし、その成果に満足することができます。

○「学校ごっこ」空箱で鞆を作ったり、画用紙や糞半紙をホチキスでとめて帳面を作って学校ごっこをする光景もよくみられます。机や椅子を黒板の方に向けて並べかえ、代わる代わる先生になって勉強ごっこをし、オルガンを弾いて皆でうたったりなどしています。

〔二月〕

(卒業記念写真) (卒業記念寄せ書)

○二月に入ると、卒業に関する行事が続くこととなりますが卒業記念写真を撮る時には、卒業免状の代わりのもを両手にしっかりと持って、誰もが緊張した表情に撮れています。

○卒業記念の寄せ書きは、模造紙半分の紙に級全員が一筆ずつ

書き加えて協同製作をします。マジックインキなどで自分の名前をかき、得意な絵を添えますが、まわりとのつり合いを考えながら、一人ずついいねいにかくように助言をします。級によって、共通の思い出をテーマにいろいろとくふうし、アイデアの記念寄せ書きができますので、これを写真に撮って卒業アルバムに加えるようにしています。

○最近の自由画帖などを見ると、自分の得意のかきなれたものばかりでなく、現在や将来の夢、希望をかいた興味深いものがありますので、話し合いをして皆でかいてみたりします。またお友だちや先生を描いてみたり、テープレコーダーに話し声や、歌声を録音したりして、将来思い出になるような活動も混ってきます。

〔三月〕

(お別れ遠足) 三月のはじめ頃、幼稚園生活最後の楽しい思い出の一つとして、また幼稚園生活で得たものを社会に出て実践する経験として付添いなしでお別れ遠足に出かけます。

一人一人が自覚をして団体行動を敏捷に、自分の行動に責任を持ち、楽しく社会見学をしてまいります。当園では、以前は、家庭ではあまり行く機会のない皇居、日比谷公園、東京タワー、立体高速道路などの見学に行ったり、羽田空港ターミナルを見学に出かけたりしましたが、交通事情などで最近では野毛山動物園と山下公園からの横浜港見学にしています。

(お別れ会)年少組の人たちとの送別会をかねて、できるだけお別れ会にしています。今までの経験を思い出して、なるべく自主的に会についての相談をし、招待状を作ったり、会に出場するものを話し合ひできめるようにします。必要なものは早目に協力して準備をし、配役をきめていっしょうけんめいに練習をしますが、全員が一言ずつでも発言するようにし、マイクなども上手に使えるように見守ったり、助言をするようにしています。当日の司会や進行はなるべく五歳児が責任をもってするようにしむけています。

(修了式)修了式を前にした心の準備として、通い慣れた幼稚園や保育室、使い慣れた机や椅子や引出しや玩具などを皆できれいにしたり、お世話になった人々のことを思い出して感謝の気持ちをもたせるようにしたいと思います。

幼稚園の修了式は、もうすぐ一年生になるのだという喜びにつつまれていて、明るく元気なふんい気にあふれています。巣立っていく喜びの中にも、自分たちのための修了式に参加しているのだという意識をはっきり持たせ、その子どもなりに立派な態度がとれるように自制心をうながしたいと思えます。話をきく態度、はっきりした返事、一人一人お免状をもらいに出る態度などに、その子どもらしさかじみ出るのを見ると、今までのいろいろな場面でのその子どもの姿が

目に浮んできて感慨無量になり、目頭がうるむ気持ちになってしまします。

こうして忙しさに追われて一生懸命、無我夢中で過ごしてきたような三学期をふり返ってみると、どの子どもも力いっぱい活動し、驚くほど成長していった頼もしい姿が目には浮びます。それぞれの小学校に進学して、幼稚園で培った芽が健かに育っていくことを祈りながらとにかく無事に小学校の門へ送りどけられたさやかな満足感をもつことができるようにしたいと思います。

当園では同じ学園内に附属小学校があり、幼稚園の卒業生が大部分を占めていますので、毎年四月末頃に小学校の校長、教頭、一年生担任の先生方と、園長及び卒業組の担任をした先生方が集まって、打合せ連絡会をしています。指導要領についての話し合ひ、小学校側からの感想や希望、幼稚園としての希望などを具体的に話し合つて意見を交換しますので、新年度の五歳児の指導に役立つ大切な行事になっています。例えば、授業中の態度、行動の所要時間について、筆順、忘れもの、特殊な子どもについての問題など、その年によっていろいろな問題が出てまいります。

なお、同じ目的で園長先生が、幼稚園の卒業生の進学している近くの公立小学校を訪問し、一年生の授業を参観したり、卒業生の動向をその小学校の先生方と話し合つて来ます。こうしてまた新しい年度の五歳児によりよい教育ができるように、たゆまぬ努力を重ねております。

(洗足学園幼稚園)